2026年11月12日

各　位

上場会社名　　テンアライド　株式会社
代表者　　代表取締役　社長　飯田　健太
（コード番号　8207）
問合せ先責任者　　専務取締役管理本部長　芳澤　聡
（ＴＥＬ　　03-5768-7490）

2027年3月期　第2四半期（中間期）連結業績予想値と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2026年5月11日に公表いたしました2027年3月期　第2四半期（中間期）連結業績予想値と本日公表の実績値との間に差異が生じておりますので、下記の通りお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ2026年5月11日に公表いたしました2027年3月期　通期連結業績予想の修正を行っておりますので、下記の通りお知らせいたします。

記

1.2027年3月期　第2四半期（中間）連結業績予想値と実績値との差異（2026年4月1日～2026年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想　（A）	6,410	9	10	△ 22	△ 0.54
今回実績値　（B）	6,079	△ 213	△ 203	△ 226	△ 5.66
増減額　（B-A）	△ 331	△ 222	△ 213	△ 204	―
増減率　（%）	△ 5.2	―	―	―	―
(ご参考)前期第2四半期実績(2026年3月期第2四半期)	6,008	△ 26	△ 24	△ 67	△ 1.69

2.差異が生じた理由

当中間連結会計期間におきましては、国際情勢の悪化や急激な為替変動によるエネルギー資源や原材料価格の高騰に伴う仕入原価の上昇及び人材不足に伴う人件費の上昇により、外食産業は依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、2027年3月期の連結業績予想につきましてはメニューラインアップの見直しや客単価の見直しを行うとともに、収益構造を抜本的に見直すべくタッチパネル注文等のＤＸ投資や新規出店やリニューアル等の設備投資を行い、収益力の改善を見込んでおりましたが、客数の伸びが当初の計画を下回るとともに諸コストの上昇や各種投資に伴う追加費用の上昇が想定を上回りました。これにより、当中間連結会計期間の売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益は前回予想値を下回る結果となりました。

3. 2027年3月期　通期連結業績予想の修正（2026年4月1日～2027年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想　（A）	12,903	109	114	48	1.19
今回修正予想　（B）	12,359	△ 327	△ 311	100	2.50
増減額　（B-A）	△ 544	△ 436	△ 425	52	1.31
増減率　（%）	△ 4.2	―	―	108.3	110.1
(ご参考)前期実績(2026年3月期)	12,093	△ 120	△ 116	△ 462	△ 11.61

4. 修正の理由

当連結会計年度におきましては、　当中間連結会計期間における業績の動向を踏まえ、前提となる売上高の低迷、原価及び人件費の上昇分の見直しを行ったうえで、メニューラインアップや客単価の更なる見直しと収益構造の見直しを伴うＤＸ投資の推進を加速させることにより、業績の改善を目指してまいります。

このような状況のもと、2027年3月期の連結業績予想につきましては売上高、営業利益及び経常利益は前回発表予想を下回る見通しとなりました。一方で、当期中に投資有価証券の売却を予定しており、特別利益の計上により当期純利益は前回発表予想を上回る見込みです。

なお、当該売却益は直近の時価に基づく試算であり、今後の市場動向や売却時期等により変動する可能性があります。

（注）上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。そのため、実際の業績等は、今後の様々な要因の変化等により予想数値と異なる可能性があります。

以　上